

中防不燃・粗大ごみ処理施設整備工事の概要 及び進捗状況

～既存施設を稼働しながら新施設を建設します～



新施設配置図



既存施設配置図

既存施設の稼働と新施設の建設

23区内の不燃・粗大ごみの処理を円滑に行うため、既存の粗大ごみ破砕処理施設と中防不燃ごみ処理センター第二プラントを稼働しながら、新施設を建設します。ピーク時には、約400名もの工事関係者が従事します。既存施設は、工事期間中もごみ処理施設として操業を継続します。

周辺地域の環境対策や選別精度の向上による最終処分量の削減を図るため、中防不燃ごみ処理センター第一プラント跡地に新たに中防不燃・粗大ごみ処理施設を建設します。



新施設イメージ図

新施設の基本コンセプト

新施設は、「周辺環境に配慮し、循環型社会の形成に貢献する施設」を基本コンセプトとしています。

新施設の特徴

- ① 共通設備を持たない独立した2系統とする事で、どちらか1系統が停止した場合でも、もう1系統だけで処理ができます。また、不燃ごみと粗大ごみの処理時間帯を分け、処理する機器を共通化し、機器点数を削減することにより、「効率的で安定した処理」が可能となります。
- ② 鉄やアルミなどの資源を可能な限り回収することで、「最終処分量の削減」に貢献します。
- ③ 作業エリアを全て屋内とする事で、騒音や振動の低減、臭気対策など「環境保全の配慮」に寄与します。

整備工事の進捗状況

現在、既存の受入貯留ヤード棟の屋根、大型標識などの解体を行っており、鉄骨等を適切な範囲（ブロック）で切断し、移動式クレーンで吊り上げ、解体作業を進めています。また、現場管理ツールを活用し、施工者と監督員間で情報の伝達と共有を行うことにより、解体現場での安全、品質を確保しています。

新施設のしゅん工は令和10年1月の予定です。工期は新施設建設のほか、第一プラント解体工事も含めて約4年4カ月となります。また、本整備工事は既存施設を稼働させながらの解体及び建築工事となりますので、周辺環境に十分配慮し、安全に整備工事を進めていきます。

(東京二十三区清掃一部事務組合
建設部建設課)



受入貯留ヤード棟屋根の解体状況



大型標識の撤去作業

【工事概要】

- 工事場所 東京都江東区海の森二丁目4番79号
- 敷地面積 約85,700m²
- 工期 令和5年9月27日～令和10年1月31日
- 施工者 極東開発・東急・岩田地崎特定建設工事共同企業体
- 建設工事
 - 受入貯留ヤード棟 高さ約20m、鉄骨造
 - 破砕処理棟 高さ約16m、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
 - 選別処理棟 高さ約28m、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
- プラント 処理能力 420トン/6時間 (210トン/6時間×2系統)